



題字 北浦 晃氏

第13号 平成9年3月16日 発行所 文化女子大学同窓会 印刷所 室蘭市高砂町3丁目11番地

「みんなの声」をご紹介!!

同窓会会長 下澤和枝



皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの場面で頑張っている事と思います。

同窓会の名簿は配らないのか

皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの場面で頑張っている事と思います。今回は『すみれ』に同封されている返信用はがきの通信欄に多く書かれています。

原先生の住所を知りたい

原先生の住所を知りたい

平成七年十一月にご逝去された先生の住所が知りたいと多数あり

各地で活躍されている方々の近況報告を

同窓会の方までお知らせ下さい

同窓会の件について

以前は過年度卒の全員に、各人の金額を書いて送付していましたが

同窓会の件について

以前は過年度卒の全員に、各人の金額を書いて送付していましたが

同窓会の件について

以前は過年度卒の全員に、各人の金額を書いて送付していましたが

同窓会の件について

以前は過年度卒の全員に、各人の金額を書いて送付していましたが

同窓会の件について

以前は過年度卒の全員に、各人の金額を書いて送付していましたが

同窓会の件について

会計報告

平成7年4月～平成8年3月末までの会計収支決算は下記の通りとなりましたので御報告いたします。

Table with columns: 収入金額, 支出金額, 繰越金, 同窓会費, 同窓会費(過年度分), 利子, 計. Total revenue: 14,351,088; Total expenses: 284,546.

終身会費(同窓会費)納入についてこの欄を借り、毎年過年度の卒業生の方々に對して、不足分の納入のお願いを兼ねてお知らせしてきました。しかし住所等宛先不明の方も多く、納入される方は毎年一割にも満たないというのが現状です。今後同窓会運営を続けていく上で、やはり卒業生皆様方お一人お一人の御協力を必要とし

した。次の通りです。札幌市中央区南6西13 リーハイイツB3号 全体の同窓会を 実施して欲しい

新名所の大パノラマ校舎 主事 菊地敬夫 昨年二月から着工された文化学園の高層ビル新校舎、地下2階、地上20階工事が順調に進められて、今年一月の東京本部での予算会議のときには、すでに7階まで骨組みが出来上がっていました。この新校舎は、来年三月完成して平成十年度の新学期から使用する予定だそうで、東京本部の人たちは「来年のいまごろは引越作業でこた返している感じがします。」



水芭蕉 君はボランティア活動をした事がありますか。タンカー重油流出除去・阪神大震災・古くからは「草刈り+学業」。若者の活動は目ざましい。調子づいて自民党の議員が「学校教育の中での奉仕活動の義務化を提案した。(だれに)いわれなくてもする。(行政などに)いわれなくてもしない」の自律こそボランティア精神と説く立場。対照的に「いわれなくてもするが、いわれなくてもできる」という主張。無償・有償、色々あっていい。子育て、夫の世話、これってボランティア?



長野 襄先生 平成八年七月にご逝去 中村 秀先生 平成八年九月にご逝去 謹しんでご冥福をお祈りいたします。



附属幼稚園二十周年を迎える

附属幼稚園園長 定家 明子



「春、何とやさしく、暖かい響きを持った言葉でしょう。と同時に学年末、学年初めの季節として、特別な思いも加わってくる、心に蘇るものが多いのも春ではないでしょうか。」

一九七六年三月末、この時に短大生であった方はグラウンドの横に新しい園舎が建ったの思い出される事でしょう。季節はずれの湿った雪がグラウンド一面を覆い歩くのは最悪状態でした。前任地での責任を果し終え



文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園 開園20周年記念祝賀会

た三人と新卒一人が初対面の挨拶を済ませ、一から開園準備を始め、緊張と不安で言葉少なく幼稚園に向いました。この時の思いは新しい年度を歩み出す時の大きな原動力となっています。あれから二十一年、昨秋には三つの二十周年行事を終えました。一つは、在園児と親達が劇団を招き「マーシャとクマ」の観劇。そのぬくもりを持って今、四三名が巣立って参りました。二つ目は、小学生の同窓会と記念文集（二月末発行）旭川、札幌、苫小牧からも参加し楽しいひとときを過ごしました。文集はそれぞれ心の残っている思い出がいっぱい、又一っ心の財産が増えました。三つ目は、中学生以上の卒園生と卒園と在園の父母、短大の先生方旧教師で式典、祝賀会及び記念誌の発行。社会人として責任ある生き方を



自分を見失わない人生を

保二期 南 みか



今回、私の弟の同級生のお母さんでもある下澤会長さんの方から「すみれ」の原稿依頼を受けまして、「何でも自由に」ということでしたので、短大時代からの自分を振り返りながら、現在の生活について書かせて頂こうと思います。



私は、現在、ここ釧路の街で主人と二人で生活しています。こちらには、釧路合同庁舎建設

JVの一員としての主人の転勤で、去年の六月から来ています。結婚して一年足らずの札幌での生活からの急な転勤でした。今当時は振り返ってみても、新婚の私達にとっては、遊ぶところの沢山ある楽しい札幌の街が、大変なごりおしく、連休ができれば、札幌へはるばるとくり出して遊ぶことばかり考えていました。（今だに札幌へはよく遊びに帰りますが。）

休日になると、一緒に子供のようにならう？いろいろな所へ行って遊んでいます。今は厳しい寒さと、「氷の道路」に負けじと、ゲレンデのとぼしい道東で、温泉&スキーツアーを予定しています。何でも一緒に分かち合える人ができたことは、私にとって心強く感じ、結婚して良かったなと思うところでもあります。そして又、右も左も分からない土地での生活を、とても不安に思っている、実家や沢山の友人のいる室蘭から遠くへ移ってしまいう事に、淋しい思いを経験しました。でも、いざ来てしまおうと住めば都で何とかなるものです。別れがあり、出逢いがあるの繰り返しの中で、いろいろな経験をして、良い思い出を沢山重ねていければいいんだなあと、今では思っています。



なつかしい 友よりの便り

生活教養科5期 五十嵐百子

先日、10年間連絡を取り合っていなかった高校時代の友人から電話がきました。お互いに結婚し、北海道から東京に住所を移していました。彼女からの電話は突然でも懐かしかったです。同時にとても懐かしくうれい事でした。偶然、同じ日に3年間連絡が途絶えていた寮の後輩から手紙が届きました。なんと彼女も引っ越しをし、同じ町内に住んでいることが分かりました。他の友人を通じて私の住所を知ったとの事でした。懐かしく心が躍って寝付けなほどでした。



フォト'97

第28回文大祭より



編集後記

先日、めいっ子が34才の若さで他界した。胃ガンだった。ふだんは丈夫とおっていた彼女だった。なので、体調の悪さに気づいた時には、もう余命半年状態だった。看護婦でもあった彼女は、告知を受けた。幼い子を2人残し、さぞ無念だったろう。丈夫でがんばり屋がうらめに出たのである。現代の医学をもってしても、不治の病はたくさんある。よって、早期発見が最良の方法なのである。忙しさにまぎれて、おこたりがちな定期検診の大切さを再確認させられた。（K・S）

お知らせ

文化祭一般公開

平成9年11月1日(土)・2日(日)